

次世代プログラム運営会議 研究者・研究課題審査(第2回)

- 日時 : 平成 22 年 10 月 28 日(木) 10:55 ~ 11:27
- 場所 : 中央合同庁舎第4号館7階 742 会議室
- 出席者 : 相澤議員、本庶議員、奥村議員、白石議員、青木議員、金澤議員

- 議事要旨 :

(相澤議員)

次世代プログラム運営会議を開催する。先週のJSPSからの報告に基づき、研究者・研究課題の審査を行う。

前回の議論を踏まえ、運営会議で審査を進めるためのたたき台を私と本庶議員で作成した。本日はこれに基づいていろいろと意見をいただきたい。

資料プー2及びプー3をご覧いただきたい。これらはJSPSの審査においてヒアリングを行った課題の審査結果である。まず資料プー2及びプー3について事務局から説明をお願いしたい。

(竹田参事官)

ヒアリング対象課題は合計●件であり、これらが資料プー2及びプー3に記載されている。まずグリーン・イノベーションに関してプー2を見ていただきたい。●位の課題で区切りを入れており、ここまでがJSPSより推薦のあった課題である。また、これとは別に、女性研究者及び上位に入っていない都道府県からの提案についても印を付けている。

プー3は、ライフ・イノベーションに関して同様の処理を行ったものであり、●位の課題で区切りを入れている。

(本庶委員)

ライフ・イノベーションの●となっているが、これはどのような意味か。

(竹田参事官)

●からの提案だと思われるものが●にあるため、このような扱いとなっているものである。

(本庶委員)

どちらを採択することが、より合理性があると考えているのか。

(事務局)

JSPSからの報告に当該●についての記載があるのでご確認いただきたい。

(相澤議員)

上位にある課題が採択圏内であることは理解したが、●は審査された結果も●であったのか。

(竹田参事官)

この●件については●しており、ヒアリングを行った結果、●位の方の評価が高かったためこのような扱いとなっている。

(相澤議員)

それでは、審査の進め方について資料プー1をご覧ください。まず、運営会議では上位一定割合の課題を抽出することとなっているが、これについては、グリーン・イノベーション上位●件、ライフ・イノベーション上位●件を採択候補とすることでよいか。

(意見無し)

これで合計●件であり、目安とした300件は超えることとなる。しかし、このままでは各都道府県から少なくとも1件は採択するという要件が満たされない。そこで、資料プー2及びプー3には、当該●件に含まれていない都道府県からの提案●件に印を付けているが、これらの課題を採択候補とすることでよいか。

(奥村委員)

この一覧表にある課題のもともとの素点はどうだったのか。

(竹田参事官)

一覧表にある備考欄をご確認いただきたい。ここに「女性」あるいは「都道府県」と記載している課題がある。このうち「都道府県」と記載しているものについては、当該要件を満たすために引き上げたものである。

(本庶委員)

ヒアリング対象課題は全体の●%弱である。審査件数が多いため仕方ないと思うが、この選択についてはかなり荒いものだと考えている。このため、引き上げることによって課題の質が著しく下がるということはないだろう。

(相澤議員)

それでは、これらの課題を採択候補に含めることとする。

次に女性研究者の比率である。採択候補●件における女性比率は●%である。応募時の比率が28%、目標値が30%であることを踏まえ、どの程度女性からの提案を採択するかご議論いただきたい。ここで、女性からの提案を追加的に採択した場合に、女性比率が何%になるかシミュレーションを行った資料を用意したので、そちらをご覧ください。

●件における女性からの提案は●件であり、比率としては●%となる。ここから、女性比率を1%刻みで増加させた場合に、何件追加採択する必要があるか示している。

女性比率を30%とすると、一覧表における女性からの提案をほとんど全て採択することとなり、少しオーバーな印象である。そこで応募時の比率28%を目安として、●%と28%の間で検討してはどうか。

(青木議員)

今榮議員とも相談したが、応募時の比率が28%あったということで、ある程度目標を達成したと考えている。このため、●%でもいいかもしれないが、統計的に正当化された数値としたい。例えば、若手研究者については女性比率を30%にすることなどが考えられる。

(相澤議員)

●件について、45歳以下で区切った際に女性比率は何%くらいになるのか。

(竹田参事官)

確認していない。

(本庶委員)

データが無いので何とも言えないが、採択候補を追加するなら若手の女性に限った方がよい。

(相澤議員)

青木議員のおっしゃる通り、●%というのも1つの選択肢ではあるが、アフーマティブアクションとしては弱くなってしまっているのではないか。

(青木議員)

それであれば、やはり年齢分布を見る必要がある。

(相澤議員)

本庶議員がおっしゃったように、採択候補を追加する場合には、若手に限定した方がよいと思われる。

(竹田参事官)

●件以外では、女性からの提案は●件である。そのうちグリーン●件、ライフ●件、合計●件が45歳以下の女性によるものである。

(相澤議員)

例えば女性比率を25%とする場合は、●件追加採択することとなるが、45歳以下の女性からの提案が●件あるため、その中から選定することは可能である。

(青木議員)

そうすれば女性の中でも若手研究者が優先的に採択されることとなる。今榮議員ともそのような方法がよいのではないかと話している。

(相澤議員)

これらを踏まえた上で、最終的に女性比率を25%とすることでよいか。

(本庶委員)

初めから25%に決めてしまうと、無理が生じる可能性もあるのではないか。25%は確かに1つのメルクマールとなり得るが、母集団が●件しかないので、応募書類を一度確認した方がよい。

一覧表を見てみると、ヒアリング対象を選定する段階で引き上げられた課題であっても、ヒアリングした結果かなり上位に来ているものがある。そのようなことがあるため、単純に上位のものから採択候補とするのではなく、1件1件内容を確認した上で決めるべきであ

る。

(相澤議員)

それでは、これまでの議論を踏まえ、45歳以下の女性研究者からの提案について、私と本席議員で精査することとしたい。そして、次回その結果を踏まえ、具体的に追加する課題について検討していただくことにしたい。

(竹田参事官)

計数したところ、●件における女性からの提案●件のうち、●件が45歳以下の女性からのものである。●割程度は若手の女性研究者から提案されたものである。

(相澤議員)

追加的採択することにより、この比率がさらに高まることとなる。

(竹田参事官)

●割かそれ以上ということになるだろう。

(相澤議員)

それでは、本日の議論を踏まえ、来週の運営会議において採択候補を取りまとめていただきたい。その他、事務局から連絡事項はあるか。

(竹田参事官)

資料プー4及びプー5を参考資料として配布させていただいている。これは、JSPSにおいて審査対象外となった課題の一覧であるが、先週の資料に不備があったため差し替えの申し出があったものである。具体的には、e-Rad による申請が無く、正規の手続きが踏まれていない申請が追記されている。

(相澤議員)

以上で次世代プログラム運営会議を終了する。

以上